

外部講師の目や校内研修を生かし 授業力と学習力の向上を目指す

大阪府 大阪市立花乃井中学校

大阪市立花乃井中学校では、大学教授による継続的な研修や教師同士の授業見学、生徒による授業評価など、外の力を必要に応じて取り入れながら教師の授業力の向上と、生徒の学習力の向上を目指している。

課題

- 教師の授業力向上への意欲や、生徒の授業規律が定着していない
- 家庭学習をしていない生徒が多い
- 教師同士が授業を見合う等、研修の機会が乏しい

実践

1 授業力と学習力の向上を目指した研修

- 大学教授を招き、外部の視点から授業改善についてアドバイスをもらい、研修を重ねる
- 数学、国語、社会、英語の4教科で実施

2 校内での授業研究の活性化

- 教師相互の授業公開と授業見学を行う
- 学年や教科にかかわらず、いつでも他の教師の授業を見学できる学校文化を醸成

3 生徒による授業評価の導入

- 授業規律に特化した評価項目を設定
- 目指す授業の最低基準を作り、全教師が評価項目をクリアする

成果

- 授業改善に向けた教師の意識改革が進み、授業力が向上、授業規律も改善
- 生徒の学習力が徐々に向上

School Data

◎大阪の中心部に位置し、校区には中小企業や商店が多い。マンションの増加に伴い転入者が増えた。ボランティアによる「土曜スクール」や「夜間英語補習講座」、週2回の放課後全員補習「スキルタイム」など、学力向上に向けて独自施策を実践する。



校長◎宮田逸子先生

生徒数◎416人 学級数◎15学級(うち特別支援学級3)

所在地◎〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀 2-8-29

TEL◎06-6441-0050

URL◎<http://www.ocec.ne.jp/jh/hananoi-jh/>

「学力保障」のために、移行期間の今できること

第2回

学力下位層が伸びる授業づくり

授業の質の向上を目指す

花乃井中学校は、大阪の繁華街である梅田や難波からほど近い大都会の中心部に位置する。そうした同校の授業改革は、2005年度に赴任した宮田逸子校長が、生徒の学習状況を把握しようとアンケートを実施したことから始まった。

「アンケートの結果を見て驚いたのは、『家で全く勉強しない』と答えた生徒が多いことでした。また、遅刻の多さや服装の乱れが目立ち、授業中の私語や忘れ物が多いなど、生活規律の面でも問題を抱えていました」

教師の指導にも問題があった。例えば、授業中に寝ている生徒がいても、教師によって注意したり、しなかったりと、生徒への対応は十分ではなかった。これでは学力向上はおぼつかない。そこで、宮田校長は「授業の質と量の確保」を軸として授業改革に着手した。

「放課後の補習講座や土曜スクールを開講すると共に、何よりも教師一人ひとりの授業力の向上を通して『分かる授業』を実現することが第一だと考え、授業改革を進めました。『分かる授業』は、単に教科内容の指導が上手なだけでは出来ません。中学校教育、特に学力下位層の生徒においてはむしろ、『自分たちのことを見ていく』『この授業についていけば大丈夫だ』という生徒の心を捉

えて離さない授業の構築こそが重要です。生徒一人ひとりが学ぶ面白さを見つけたせる授業を目指しました。また、この『改革』には、教務主任をはじめ、主任層が大きく力を発揮しました」（宮田校長）

大学教授による指導で授業づくりを学ぶ

生徒一人ひとりが学ぶ面白さを見つけたせる授業の実現には、生徒をきめ細かく見取る教師の力量形成が鍵となる。同校は、授業の質を高めるに当たり、学校の近くにある大阪教育大の支援を受けることにした。大阪市教育委員会の「学力向上クリエイティブ研究」支援によるもので、まず数学を中心として、社会など、それぞれの教科を専門とする教授に指導に入ってもらった。教務主任（指導教諭）で数学科担当の石川邦子先生は、その成果について次のように話す。

「初めて教授から指導を受けた時には、これまで経験がなかったので相当、緊張しました。指導をいただくようになってから3年目の今年も、その緊張感に変わりはありません。この気持ちで授業を組み立てる指導者を成長させていると思います。数学科では週1回の指導を受けていますが、指導計画に基づく毎時の授業のねらいや進め方について、的確な指導と手直しをいただくことによって、授業力は目に見えて向上しています。更に、



大阪市立花乃井中学校校長
宮田逸子 Miyata Tsuko
「こういう学校にしたい」という先生方の思いをロードマップに描いて実現したい」



大阪市立花乃井中学校教頭
橋本寛 Hashimoto Hiroshi
「粘り強く、ひたむきに努力すれば、夢は叶う」



大阪市立花乃井中学校
石川邦子 Ishikawa Kuniko
教務主任（指導教諭）、数学科担当
「考える」ことから逃げない子どもを育てる」



大阪市立花乃井中学校
中西正明 Nakaniishi Masaki
社会科担当。「自分の身なりや立ち居振る舞いが生徒に影響を及ぼしていると常に自覚している」

教科研究の課題と進め方へのアドバイスを受けて、毎年、教科の研究発表を行っています。何より教授自身が授業中、行き詰まる子どもへきめ細かい指導をしてくださることが、授業者をはっとさせてくれます」

社会科担当の中西正明先生は、アドバイスは具体的ですすぐ授業に反映できるものだったと話す。

「指導案を細かく見ていただいたのですが、例えば、指導案にあった『君は東京に住みたか？』という発問に対して、『その問いは子どもにとって楽しいものですか？』と指

摘されました。運動会明けで疲れている生徒と、文化祭に向けて頑張っている生徒では、状況がまるで違います。二、三の発問を用意しておき、生徒の状況を見て、その場に合った発問が出来るようにしておくべきだと助言されました。生徒の見取りが甘かったことを痛感しました」

このような細かなアドバイスが得られたことで、生徒を丁寧に見取る姿勢が次第に同校の教師に身に付いていった。

「特に新採用の教師にとっては、大きな刺激になりました」(宮田校長)

研究指定終了後も、数学を指導した大学教授はボランティアでほぼ毎週、指導に来ている。また、10年度には、国語と英語でも大学教授を招き、指導を受けている。

他教科の授業見学で 授業への引き込み方を学ぶ

外部の力を生かした授業改善を図る一方、同校では年1回以上、教師がそれぞれ自分の授業を公開し、また他の教師の授業を見学する機会が設定されている。更に、校内研究授業などの公式の機会以外でも、いつでも授業を見学することが奨励されている。

「授業が分からない子どもを、どのようにして引っぱりながら授業を展開するのか。これはすべての教科に共通する課題です。授業への引きつけ方や雰囲気作り方、どういっ

た人間性で生徒に迫っていくかなど、教師は多角的な視点で他の教師の授業を見ています」(宮田校長)

生徒も授業見学に慣れていると、中西先生は話す。

「授業中に他の先生が入ってきてても、生徒は全く気にせず授業を受けています」

では、どうすれば、生徒一人ひとりが学ぶ面白さを見つけだせる授業が出来るのか。宮田校長は、国立教育政策研究所の千々布敏弥 総括研究官から指摘された「オープンクエスチョン」と「クローズドクエスチョン」がキーワードになると言う。

「クローズドクエスチョンでは、答えは一言、二言で終わってしまいます。そのため、質問される生徒の側が主役になりにくく、生徒が自分で考える余地が少なすぎてしまいます。一方、オープンクエスチョンは、相手の考えや気持ちを求める質問であるため、会話が発展しやすいという特徴があります。ですから、生徒の中に、面白さや理解の連鎖反応が次々に起こっていくのです」(宮田校長)

授業規律のみに絞った 生徒による授業評価

同校では、4年ほど前から年1回、生徒による授業評価を実施している(図)。項目は、「先生は、チャイムが鳴り終わるまでに、教室にきていますか」「先生は、私語でうるさ

図

生徒による授業評価項目

No.	評価項目	評価			
1	先生は、チャイムが鳴り終わるまでに、教室にきていますか。	A	B	C	D
2	先生は、忘れ物の点検をしていますか。	A	B	C	D
3	先生は、前の授業の要点の確認をしていますか。	A	B	C	D
4	先生は、毎時間授業のねらいをはっきりさせていますか。	A	B	C	D
5	先生は、全員が分かるはっきりとした声で説明をしていますか。	A	B	C	D
6	先生の、黒板に書いてある内容は整理されていますか。	A	B	C	D
7	先生は、みんながノートを取っているか確認していますか。	A	B	C	D
8	先生は、私語でうるさいとき等に注意していますか。	A	B	C	D
9	先生は、チャイムが鳴り終わるまでに授業を終わっていますか。	A	B	C	D

年度末には生徒による授業評価が行われる。授業規律がきちんと保たれているかチェックする指標として活用する

「学力保障」のために、移行期間の今できること

第2回

学力下位層が伸びる授業づくり



校内研修の1コマ。国立教育政策研究所の千々布敏弥総括研究官を招き、外部の視点から生徒の指導についてアドバイスをもらい、研修を重ねている

同校は、授業以外でも、地域のボランティア

主任クラスと合意した上で 新たな方策を職員会議で示す

いとき等に注意していますか」など授業規律に関するものだけで、「授業は面白い」「授業は分かりやすいか」といった生徒の主観に左右される項目はあえて入れなかった。宮田校長はその理由を次のように説明する。

「生徒によっては『面白い授業』の意味をよく理解できていないこともあります。この項目は、あくまでも授業の枠組みです。低い評価を受けた教師がすぐに直せるチェックポイントだけにしました」

これらの項目は、教師全員が達成すべき最低基準というわけだ。生徒からの評価によって、授業規律のばらつきが解消できている。

アによる「土曜スクール」、週2回の放課後全員補習「スキルタイム」など数々の取り組みを取り入れてきた。宮田校長は、「精神的な支柱に置いているのは、『進取の気性』です。挑戦する精神を大事にしたいと考えています。毎年度、方策を常に2、3は出しています。自分を自身に課しています」と話す。

新しい取り組みを実施する際には、前もって管理職と主任の教師が話し合っておき、十分に検討してから、職員会議に諮るようになっている。

「新しい取り組みを職員会議でいきなり出すのではなく、事前に教務主任を中心に、主任の先生方と意思疎通を図っておくことで、新しいことに挑戦しようという機運が高まっています。職員会議で精神論は一切言わず、具体的な方策から話を始めるようにしています」（宮田校長）

橋本寛教頭も、主任クラスの教師との連携が重要だと話す。

「学校全体の方向性を確認し、皆が同じ方向に向くように、主任同士で普段から連携を取ることが大切だと考えます。その上で、それぞれの役割が果たすべき役割をしっかりと考えて、工夫して取り組んでもらっています」

教師が多忙なのは同校も例外ではない。宮田校長は、忙しさが子どものためになっているという達成感や充実感が大事だと話す。

「子どもと一緒に学んでいきたいという原

点を、本校の先生方は絶対に捨てていないという信頼が私にはあります。疲れていても、大変でも、子どもたちのために頑張ろうという気持ちにさせることが、校長の責務の一つだと思っています」（宮田校長）

小学校見学からも 授業改善を探る

ここ数年で、授業見学や授業評価に対する教師の意識は一変した。自分の授業を見られ、生徒に評価されたりすることに対する抵抗感は無くなったという。

10年度は、初の試みとして、教師全員が校区の小学校の授業を見学した。

「9年間の義務教育には、一貫性が必要で、中学校の教師は『小学校でこうしてくれば』と思いがちですが、小学校でどのような教育をしているのか、まずは相手を見るのが大事だと考えます。小学校の授業を見学して実感したのは、一人ひとりの子どもに対するきめ細かさです。中学校以上のものがありました。教科担任制である中学校では、その小学校のきめ細かな指導をそのまま取り入れることは出来ませんが、他教科の指導から学べるようなところに、小学校見学でも得られることがあると思います。教科の専門性がある中学校教師だからこそ出来ることを、もつと工夫しなければなりません。授業はまだまだ改善の余地があります」（宮田校長）

練習問題⑤

$$(x-y) \div 2 = \frac{(x-y)}{2} = \frac{x-y}{2}$$

理解度の低い生徒が陥りやすいミスに言及

「 $(x-y) \div 2$ は、「 $x-y$ を2で割る」ということを表しています。もしカッコがなければ、 y しか2で割れません。でも、分数の形にしたら、カッコがなくても $x-y$ を2で割るのだと伝わります。だから、カッコは必要ありません。必要ないものは書かないこと」

Point!

4 練習問題 その2

●プリント【問1】①～④に取り組ませる。

- ① $a \div 6$
- ② $4x \div (-7)$
- ③ $-5 \div x$
- ④ $(a+b) \div (-3)$

●【問1】①～④の答え合わせ

◆しっかりノートをとっているか確認する

生徒が練習問題に取り組んでいる間、T2の教師と2人で机間指導。出ていない生徒には個別に対応

5 練習問題 その3

●プリント【問2】①～④に取り組ませる。

- ① $4 \times a \div 3$
- ② $a \div 8 \times (-b)$
- ③ $2 \div x \div 3$
- ④ $4 \times (x+y) \div 5$

●【問2】①～③の答え合わせ



◆しっかりノートをとっているか確認する

生徒が練習問題に取り組んでいる間、T2の教師と2人で机間指導。出ていない生徒には個別に対応

Point!

- ・全員が終わるまで待たず、できた生徒から順に黒板の前に出し、答えを記入させる。
- ・答え合わせに際しては、繰り返し「6つの約束」と「今日の約束」を振り返って意識させる

●【問2】④の答え合わせ

$$4 \times (x+y) \div 5$$

学下位層の生徒へのフォローを意識

理解のあやふやな生徒は $\frac{4x+y}{5}$ としてしまいがちなので、あえてこの問題のみ、教師が解説をしながら解く。

Point!

「さっきの問題ではカッコははずしましたが、この問題ではこのまま置いてください。分子に $x+y$ しかなければ、カッコは必要ありません。でも、これは、 $4 \times (x+y)$ です。ですから、この場合は絶対にカッコを付けてください。カッコがなければ、4と x しか掛け算が出来ません」

5分 6 復習と【問3】を宿題として出す

◆チャイムが鳴り終わるまでに授業が終る

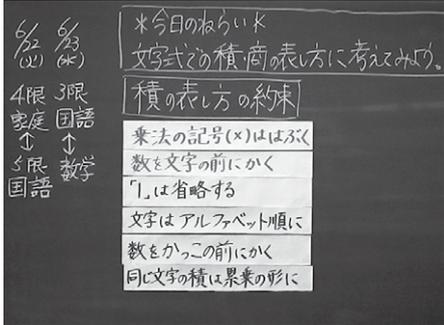
チャイムが鳴り始めてしまったため、「チャイムが鳴ってしまったけれどごめんさい」と断りながら宿題を出す

学力下位層が伸びる授業づくり

花乃井中学校 数学の実践例 1年生数学 文字式での積・商の表し方 (佐々木香織教諭)

本時のねらい・文字式での積・商の表し方を考えてみよう

- ・指導上意識した箇所を **Point!** で示した
- ・P.22「生徒による授業評価項目」に対応する部分を◆で示した

時間	学習活動	教師の働き掛け
15分	1 宿題の確認 <ul style="list-style-type: none"> ●宿題プリントを確認 ●積の表し方の「6つの約束」を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ◆始業のチャイムと同時に授業開始 ◆忘れ物の点検 宿題プリントを忘れた生徒をチェック。忘れた生徒に予備を渡す ◆前の授業の要点の確認 前時で学習した、文字式の積の表し方の「6つの約束」を黒板に示す。生徒全員で声に出して読みながら確認 <ul style="list-style-type: none"> ・時々、眠そうになっている生徒を指名して「6つの約束」を読ませ、授業に集中させる ・答えに詰まっている生徒には「前の時間に確認した約束を思い出して」などの声掛けを行うなど、スパイラル的指導を意識
	2 導入 <p>今日のねらい 文字式での積・商の表し方を考えてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ●文字式の導入として、整数を使った割り算の表記を確認 $2 \div 3 = \frac{2}{3}$ <p>確認 文字式では除法の記号(÷)を使わずに、分数の形で表す $a \div b = \frac{a}{b}$</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆授業のねらいをはっきり示す 今日のねらいは、授業前に黒板に大きく書いておく Point! 理解が追いついていない生徒を見逃さない 答えに詰まっている生徒を見つけ、「割り算は掛け算にすることが出来ました。×という記号は省くと約束しましたが、÷はどうだと思いますか？」とヒントを出す
30分	3 練習問題 その1 <ul style="list-style-type: none"> ●要点や練習問題が書かれたプリントを配布、ノートに貼らせ、確認事項を写す <p>練習問題① $a \div 5 = \frac{a}{5}$ $a \div 5 = a \times \frac{1}{5} = \frac{1}{5} a$ でもOK</p> <p>練習問題② $x \div (-4) = \frac{x}{-4} = -\frac{x}{4}$</p>	<ul style="list-style-type: none"> Point! 理解度の低い生徒が陥りやすいミスに言及 「分母にマイナスがありますが、このような数はありません。2÷(-3)のときは、どうしていましたか？」と、整数の計算に戻って理解させる

導入

展開